

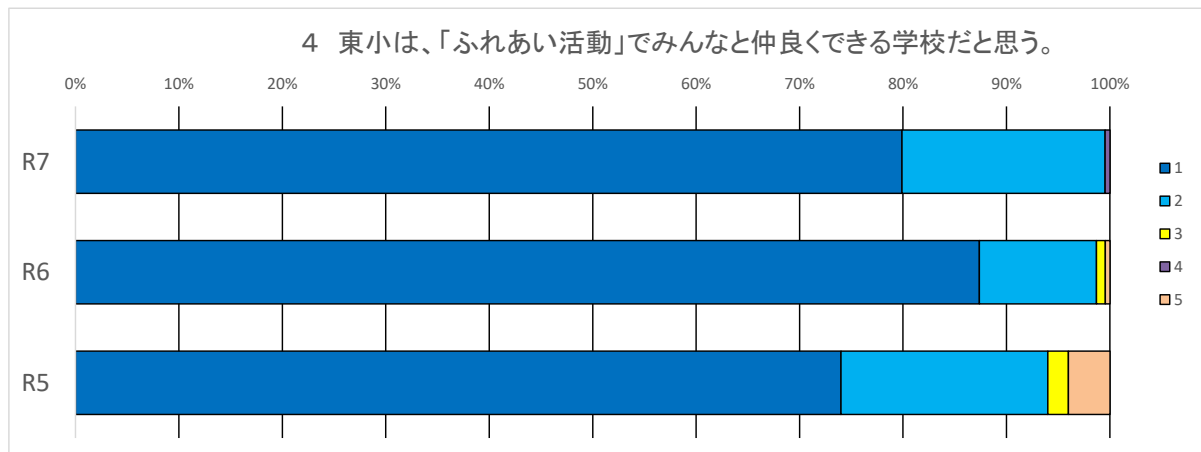
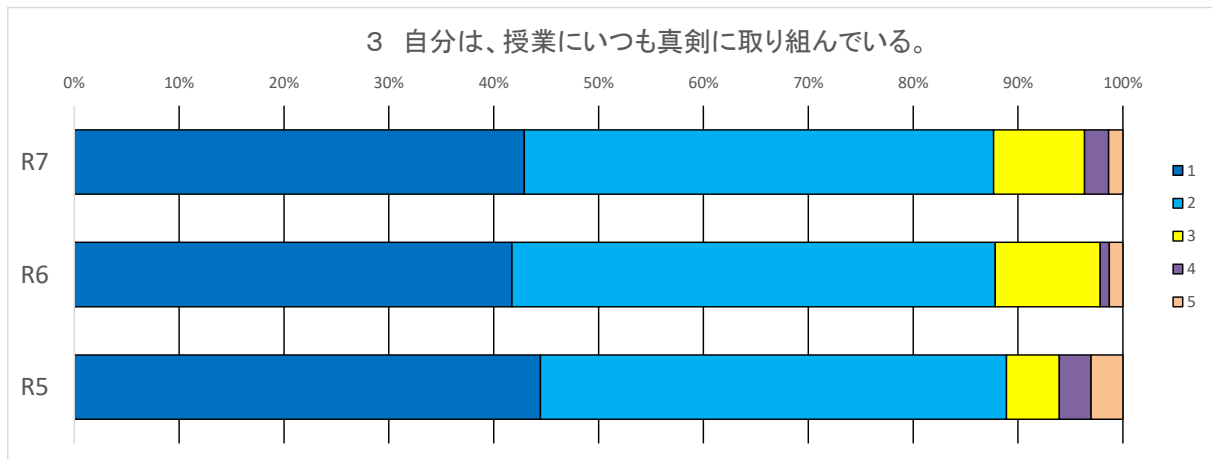
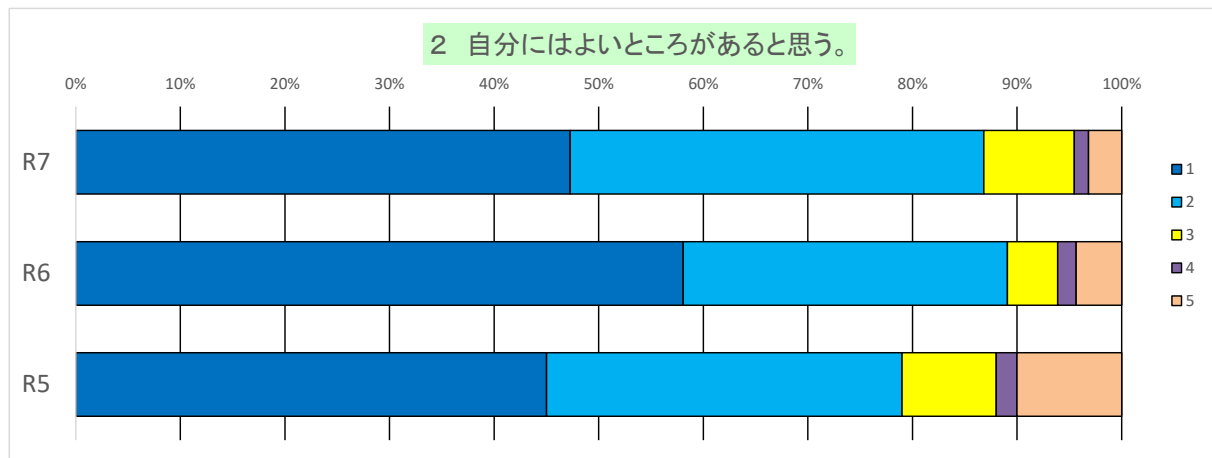
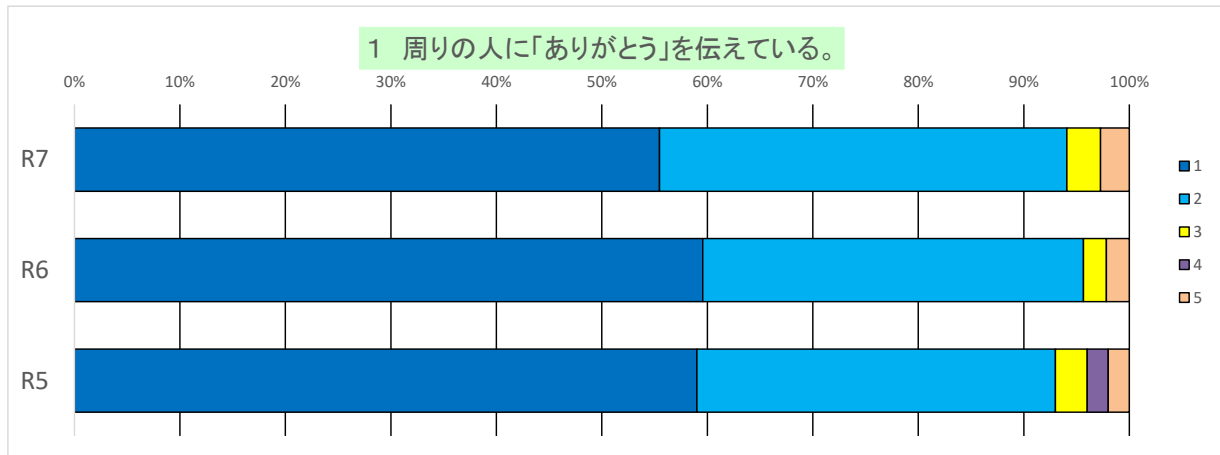
令和7年度学校評価アンケート 結果 保護者

保護者用	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
項目	「子どもたちが、周りの言葉で人に感謝の気持ちを持	の子どもたち、互いを認め合ったり、自分	子どもたちは、学習に意欲的に取り組んで	る。子どもたちの心を育むのに適した活動は、あ	を育むのに適した活動は、命を尊ぶ心	のは、個性を尊重し、共に生きる心を育	う。学校は、ホームベースや学校の様子が伝わる学	い。教職員は、子どもたちが発言しやすい温か	努められている。分かりやすい授業となるよう	付けた生活をするなど、自分や健康に気を	め。おさん、進んで体を動かして遊ぶ	に。職員は、適切な場面では、的確に動いて	て。職員は、子どもたちのよいところを認め
1 あてはまる (そう思う)	43%	31%	39%	70%	82%	67%	52%	46%	45%	30%	44%	39%	54%
2 どちらかといえば、あてはまる (まあまあそう思う)	45%	57%	44%	27%	17%	28%	41%	39%	38%	58%	36%	31%	36%
3 どちらかといえば、あてはまらない (あまりそう思わない)	6%	7%	11%	1%	0%	2%	5%	4%	3%	9%	14%	7%	6%
4 あてはまらない (そう思わない)	2%	2%	2%	0%	0%	0%	1%	2%	2%	1%	2%	3%	1%
5 分からない	4%	3%	3%	2%	1%	3%	1%	9%	12%	2%	4%	20%	3%
1+2 (肯定的)	89%	89%	84%	98%	99%	95%	93%	85%	83%	89%	80%	70%	90%

令和7年度学校評価アンケート 結果 職員

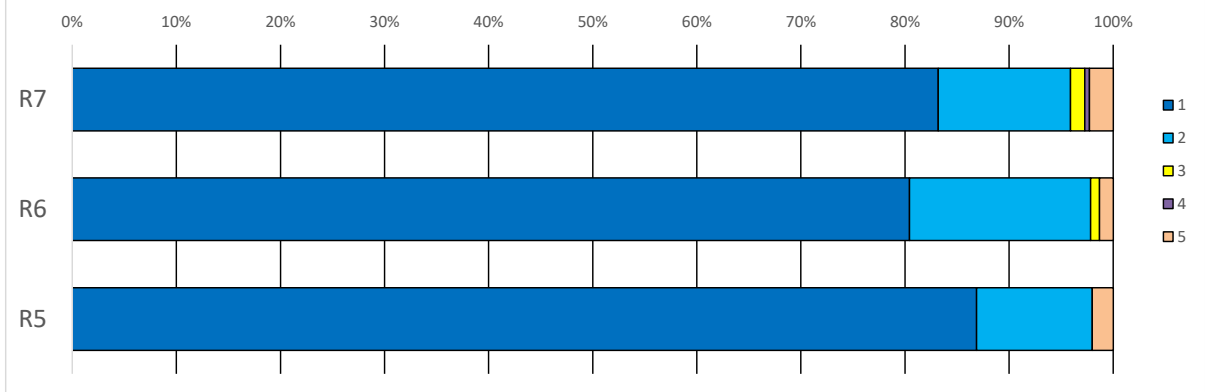
職員用	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	
項目	学東校小にはす、「あより努がめとうーいるがと思ふる。学級や	よ東小の児童が互いを認め合っている、自らの	る東小の児童が学習に意欲的に取り組んでい	うど東小の心が育っている。「ふあたい活動だ」と思、子	をや学校が地域の「と緑活動だ」と思、「命を尊ぶ心	のは、個性を尊重し、特別支援学校の交流	いよ東小には、家庭に適切な連絡や報告が行か	る発言しやすい温かい学級づくりに努めてい	や基礎的・基本の定着に努めている。組や分	努めどを「い、児童生徒の健康増進のた	てを動かす、課外遊びを高める機会に、体	うたいとき、迅速かつ積極的に行な	抱けるよう指導に努めている。一人一人の活	の児童のよいところを認め、一人一人の活
1 あてはまる(そう思う)	82%	35%	29%	75%	76%	65%	59%	53%	56%	59%	53%	76%	59%	
2 どちらかといえば、あてはまる(まあまあそう思う)	12%	65%	65%	25%	24%	24%	41%	47%	38%	41%	47%	24%	41%	
3 どちらかといえば、あてはまらない(あまりそう思わない)	6%	0%	6%	0%	0%	12%	0%	0%	6%	0%	0%	0%	0%	
4 あてはまらない(そう思わない)	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
5 分からない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
1+2(肯定的)	94%	100%	94%	100%	100%	88%	100%	100%	94%	100%	100%	100%	100%	

令和7年度 学校評価アンケートまとめ 児童3年間比較

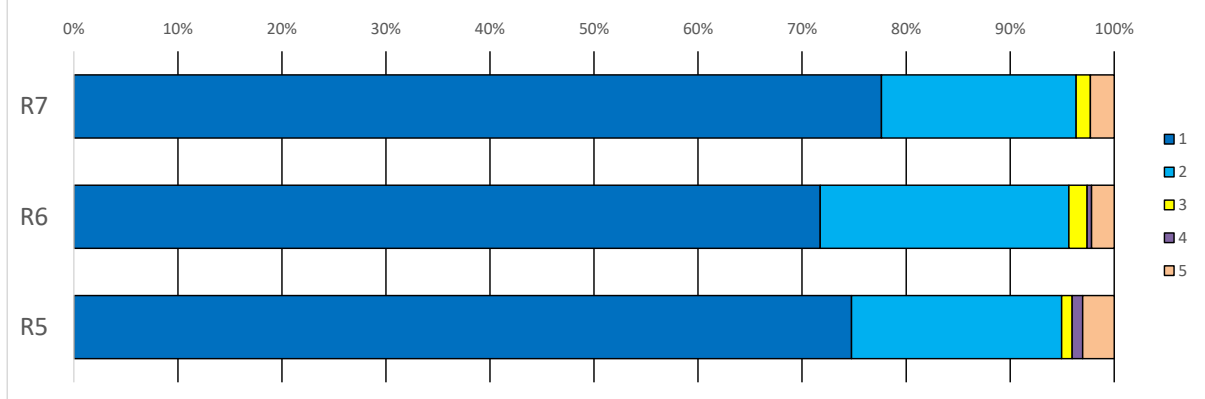


令和7年度 学校評価アンケートまとめ 児童3年間比較

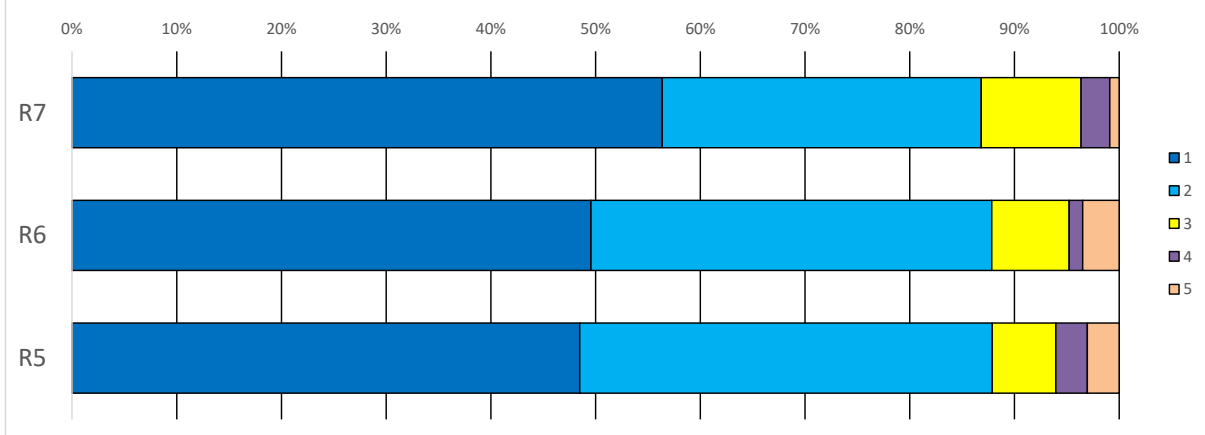
5 東小は、他の学校では体験できない「命の学習」ができるよい学校だと思う。



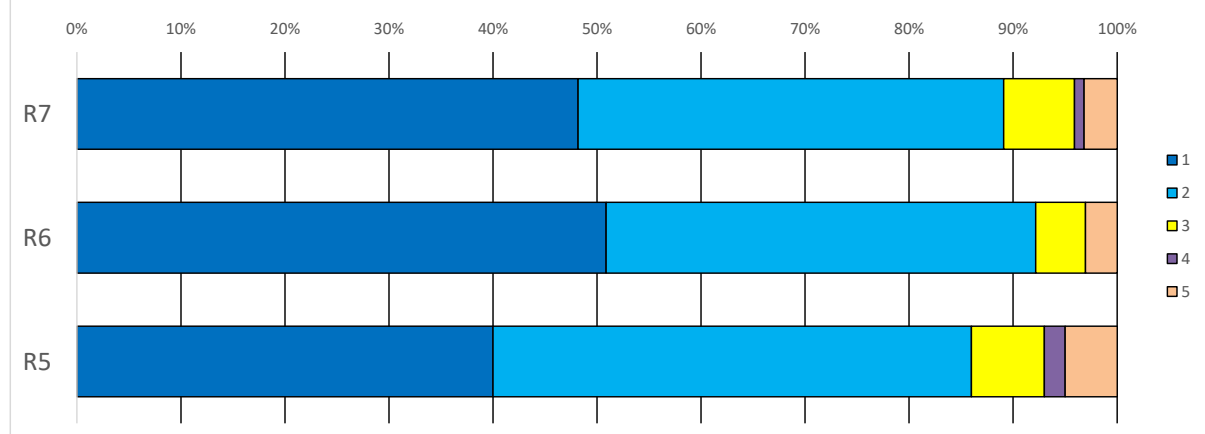
6 東小は、特別支援学校の子たちと仲良く過ごせるよい学校だと思う。



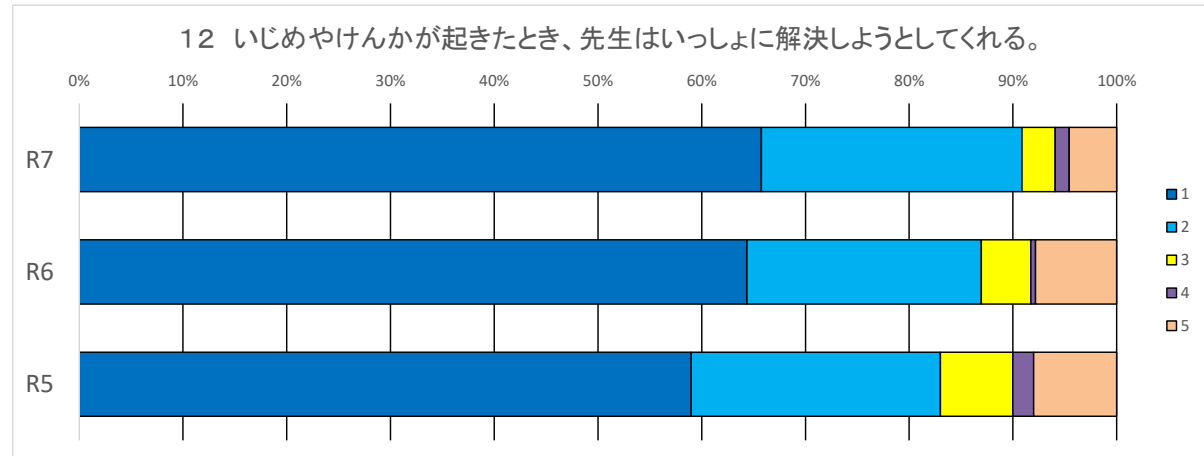
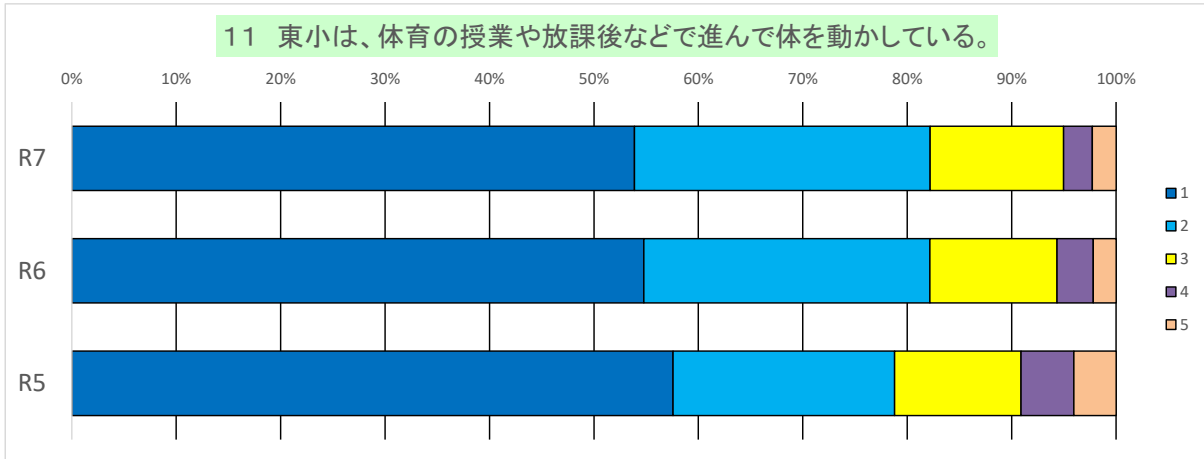
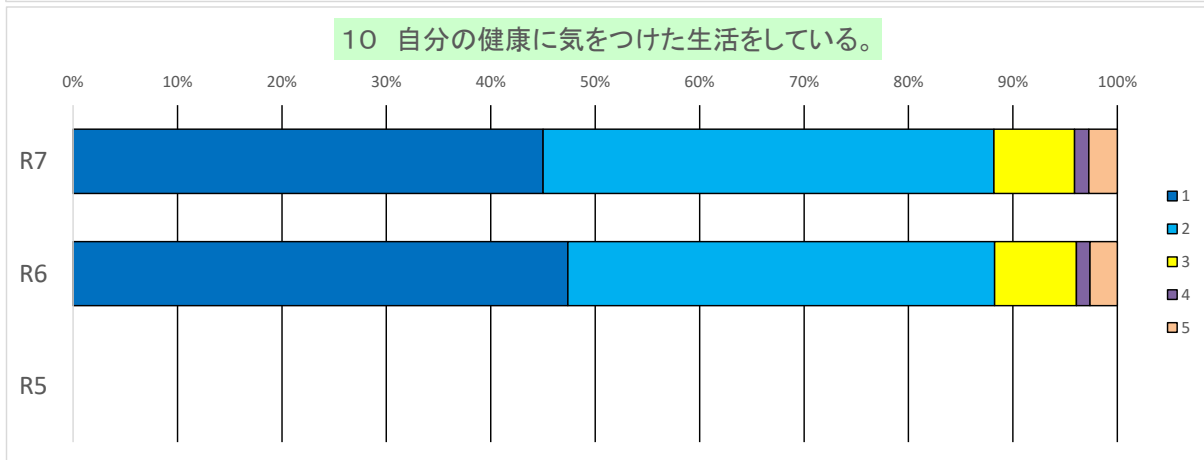
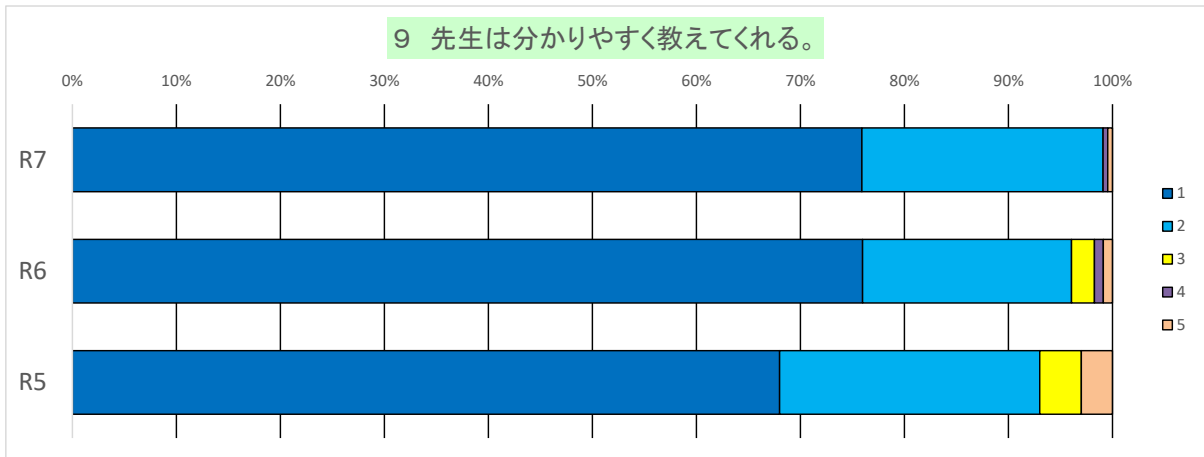
7 自分は毎日学校に来るのが楽しい。(児童)



8 自分の学級は、話しやすい雰囲気がある。

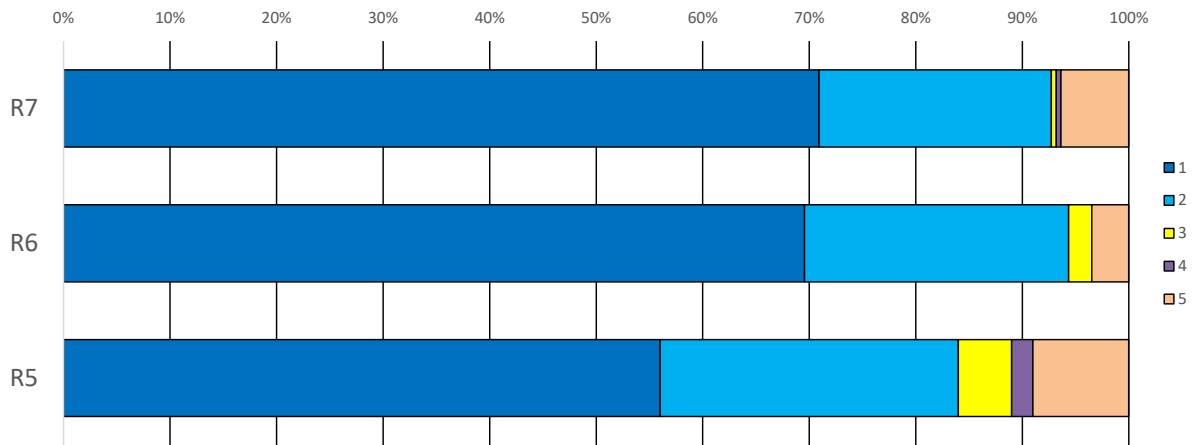


令和7年度 学校評価アンケートまとめ 児童3年間比較

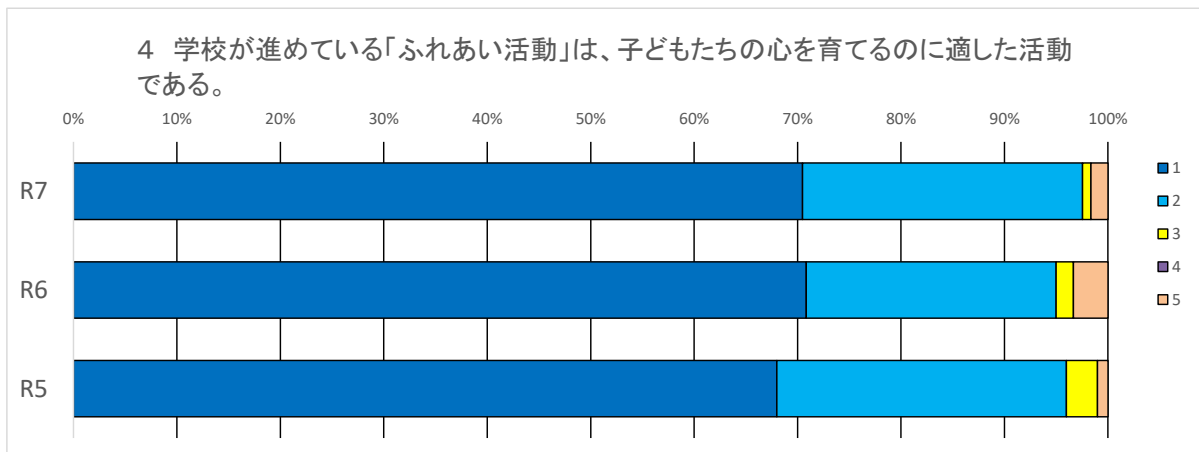
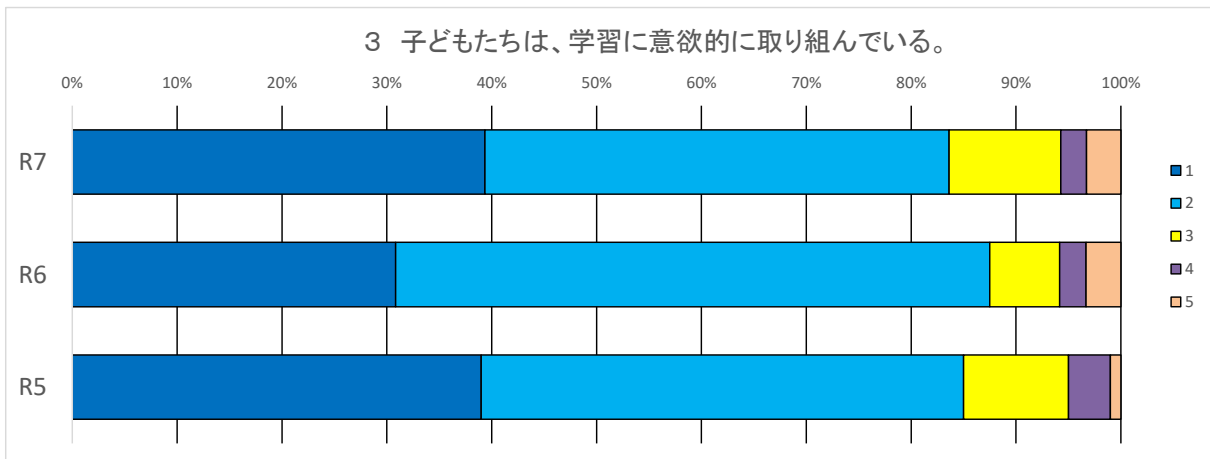
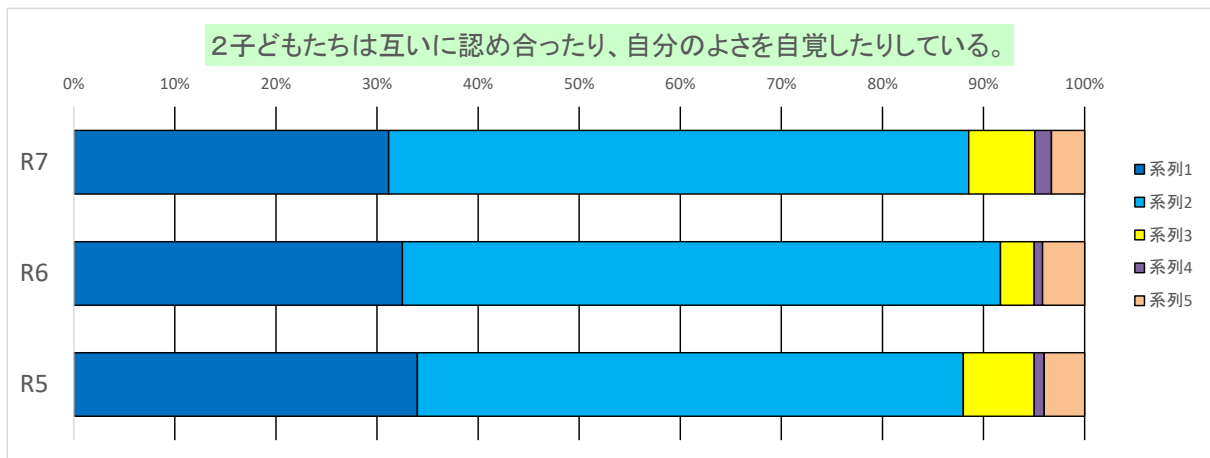
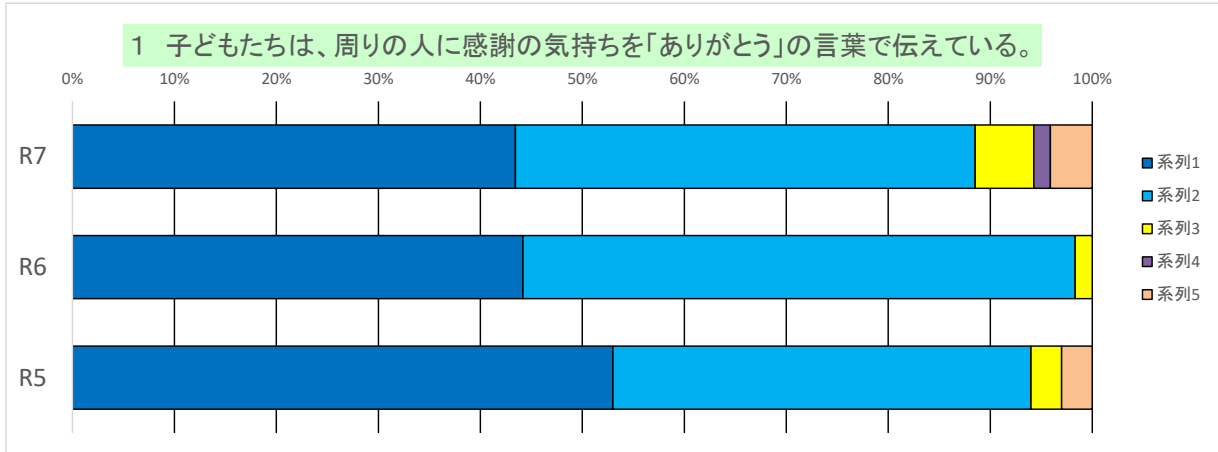


令和7年度 学校評価アンケートまとめ 児童3年間比較

13 先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う。

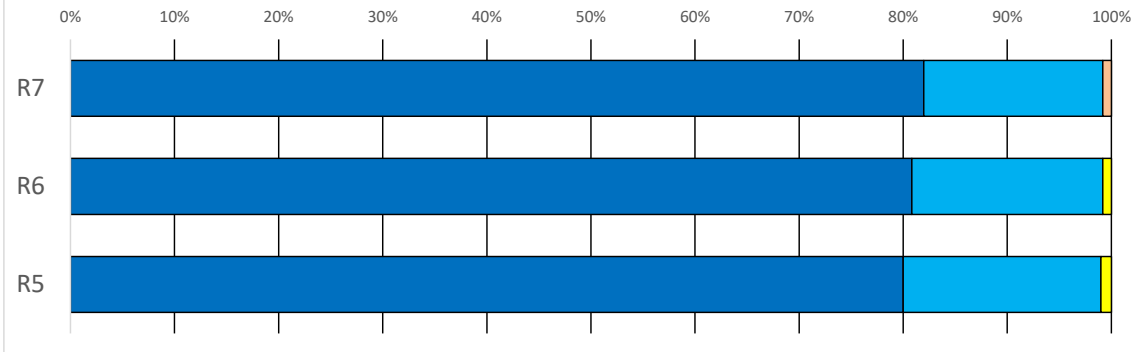


令和7年度 学校評価アンケートまとめ 保護者3年間比較

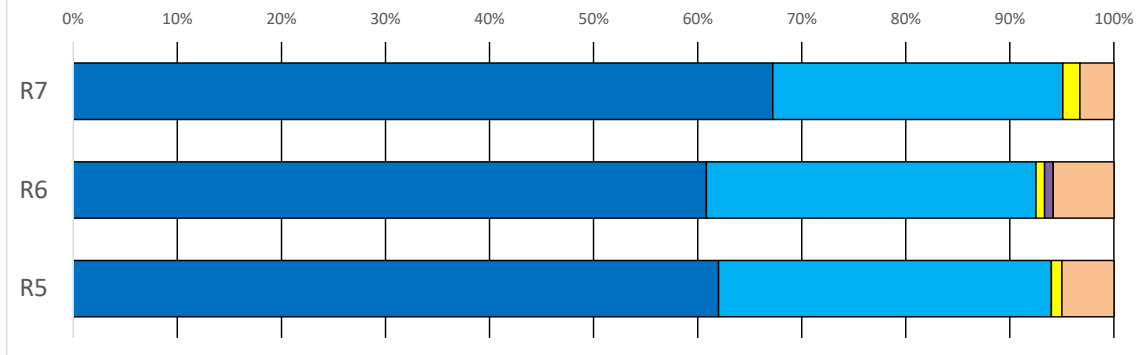


令和7年度 学校評価アンケートまとめ 保護者3年間比較

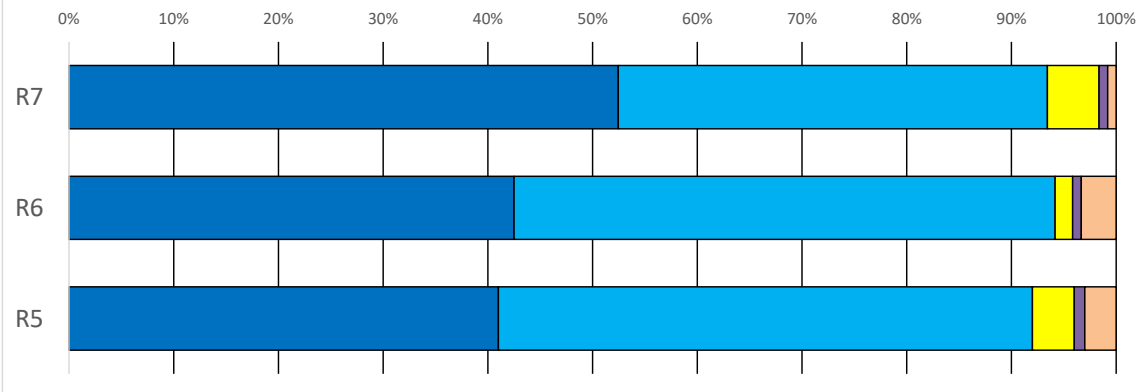
5 学校が地域と共に継続している「ホタルや子牛の飼育」や緑化活動は、命を尊ぶ心を育てるのに適した活動である。



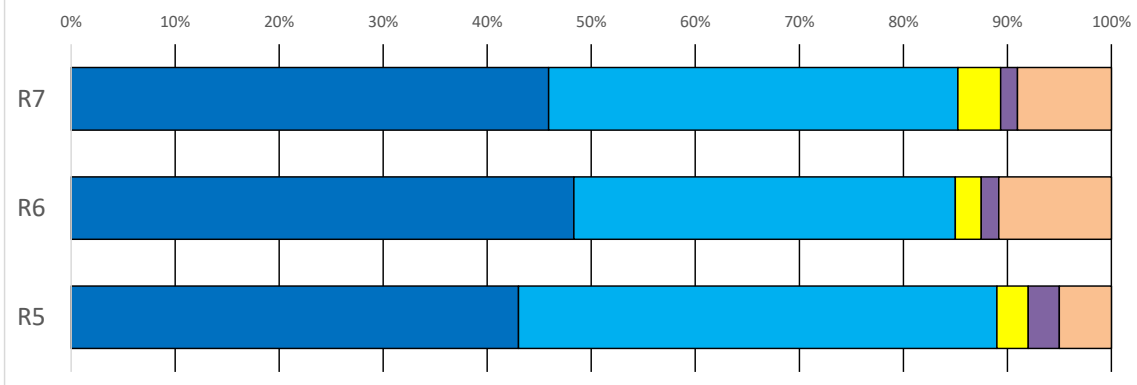
6 東小と特別支援学校との連携は、個性を尊重し、共に生きる心を育てるのに適した活動である。



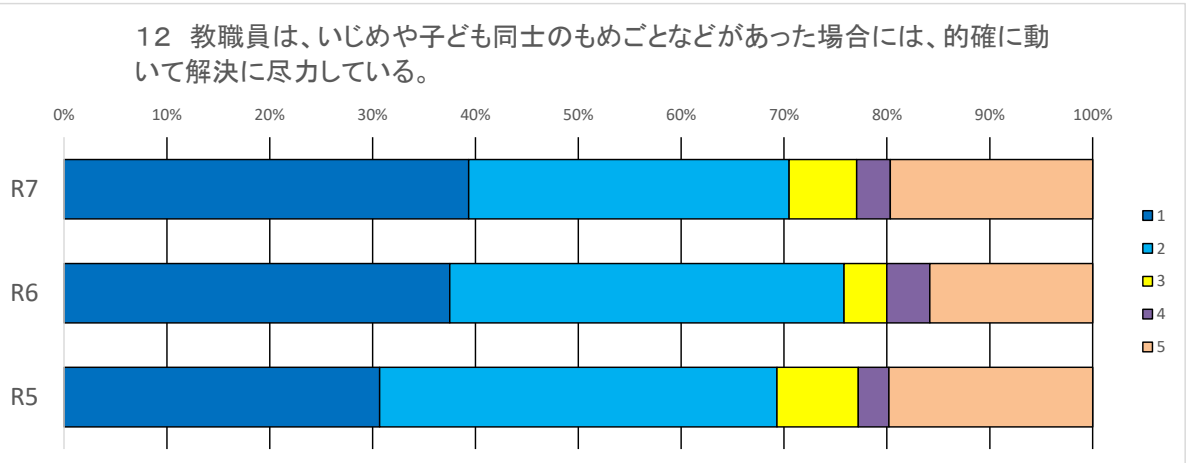
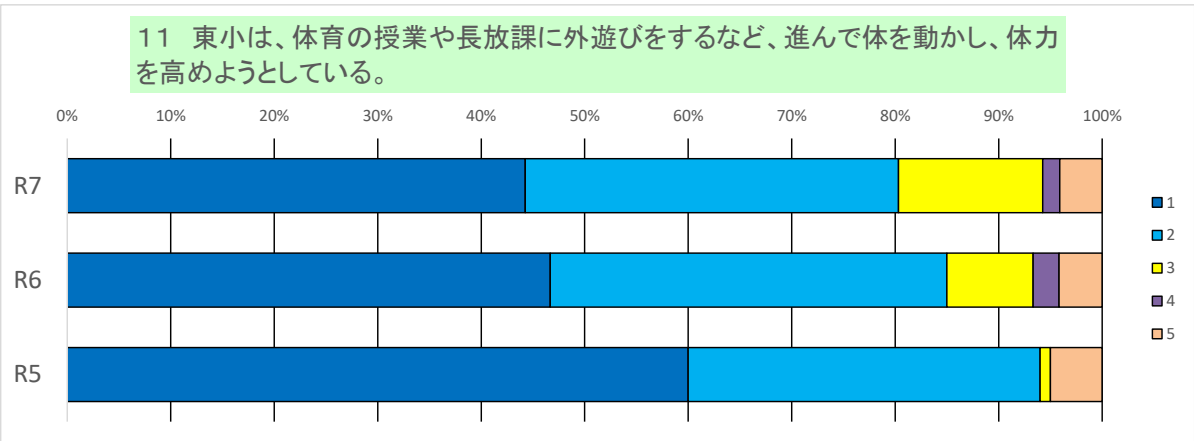
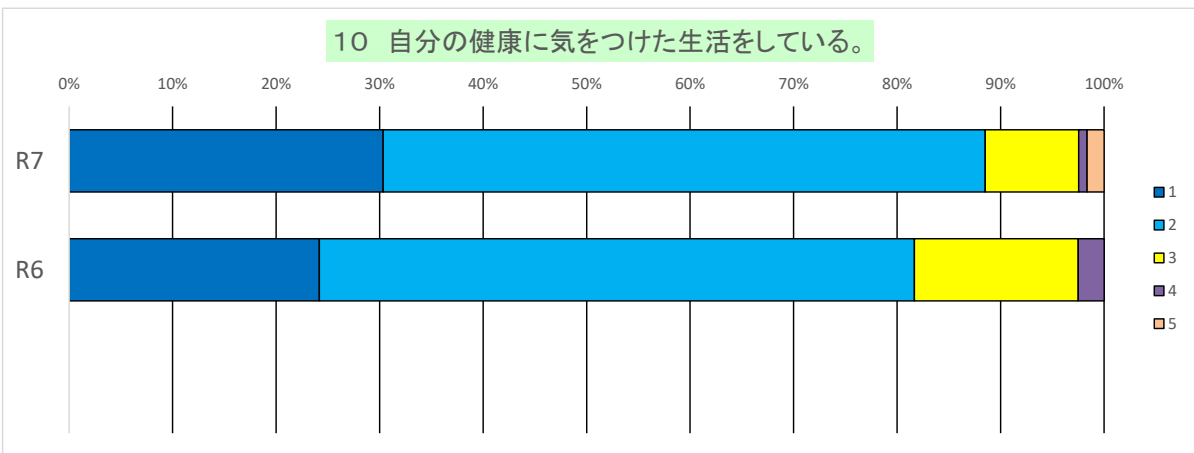
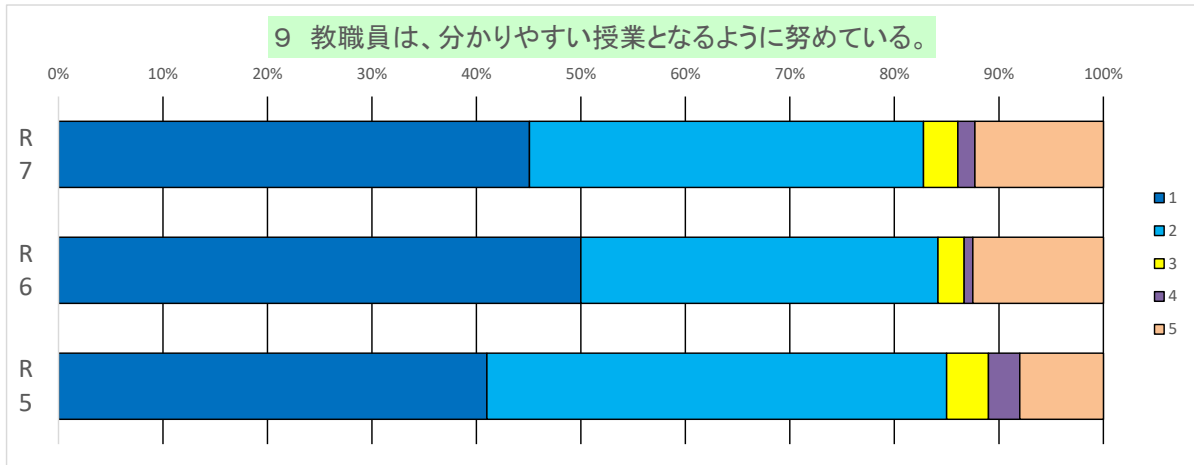
7 東小は、ホームページや学校だより・学年だより等を通して、学校の様子が伝わるようにしている。(保護者・教職員)



8 教職員は、子どもたちが発言しやすい温かい学級づくりに努めている。

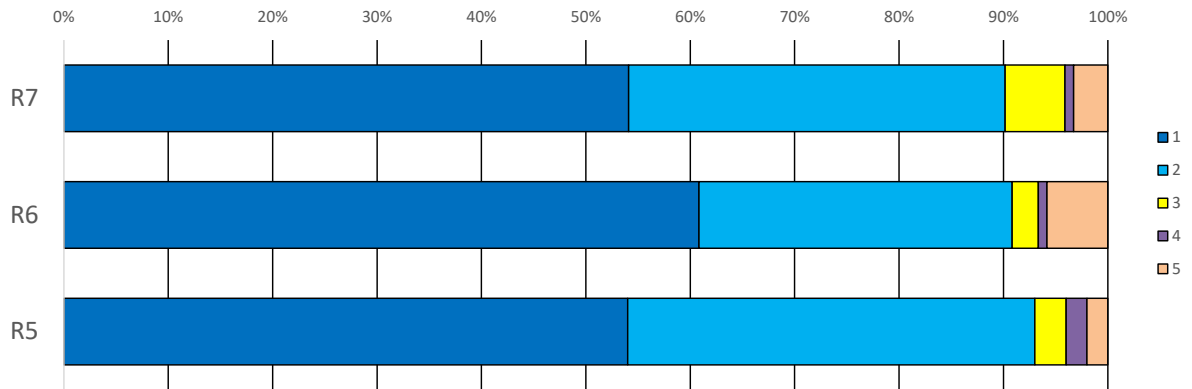


令和7年度 学校評価アンケートまとめ 保護者3年間比較



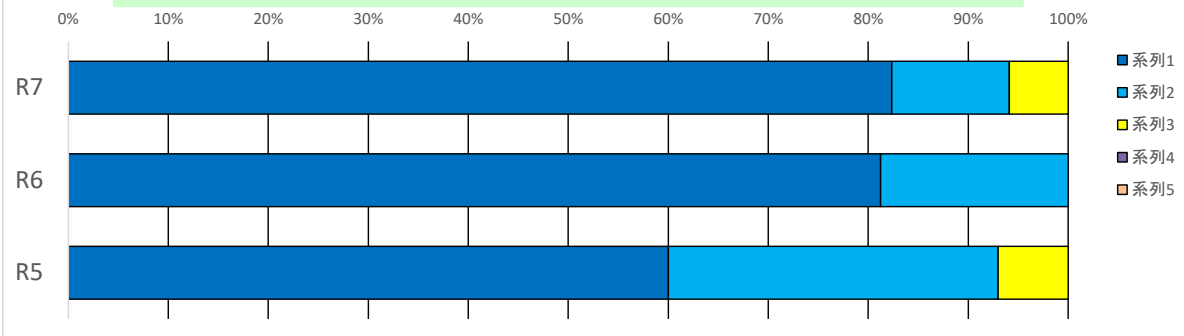
令和7年度 学校評価アンケートまとめ 保護者3年間比較

13 教職員は、子どもたちのよいところを認めてくれている。

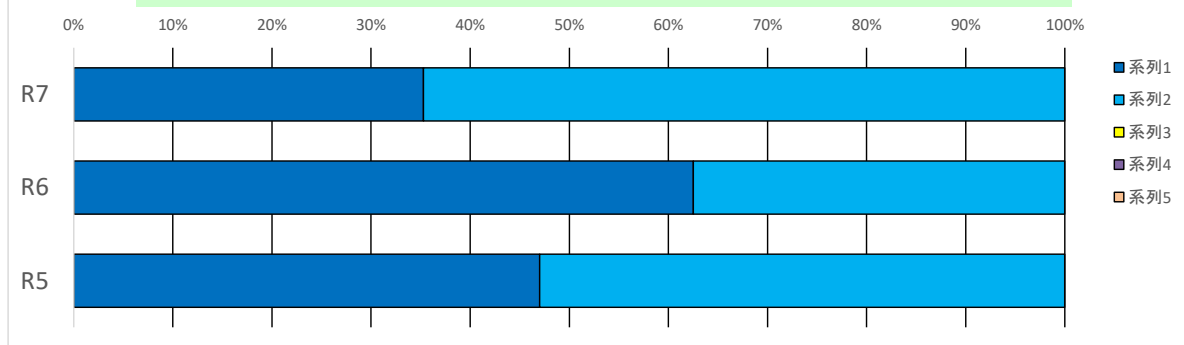


令和7年度 学校評価アンケートまとめ 教職員3年間比較

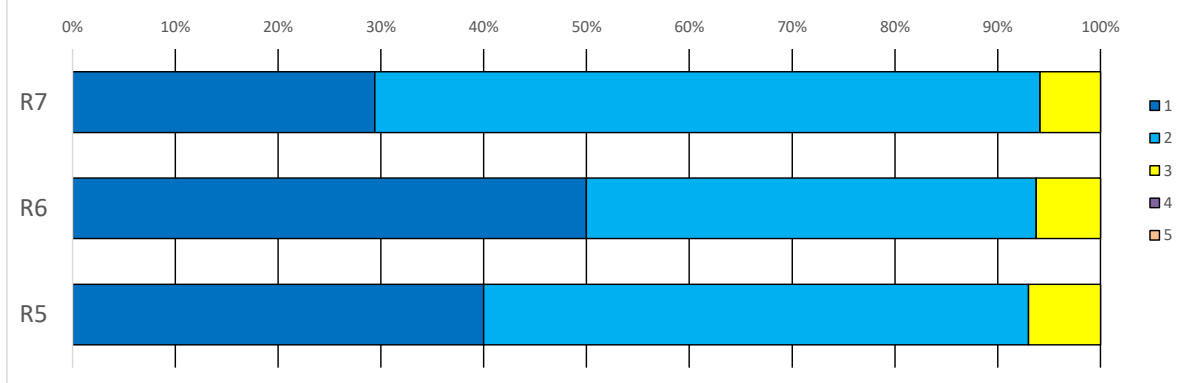
1 東小は「ありがとう」のあふれる学級や学校をつくるよう努めていると思いますか。



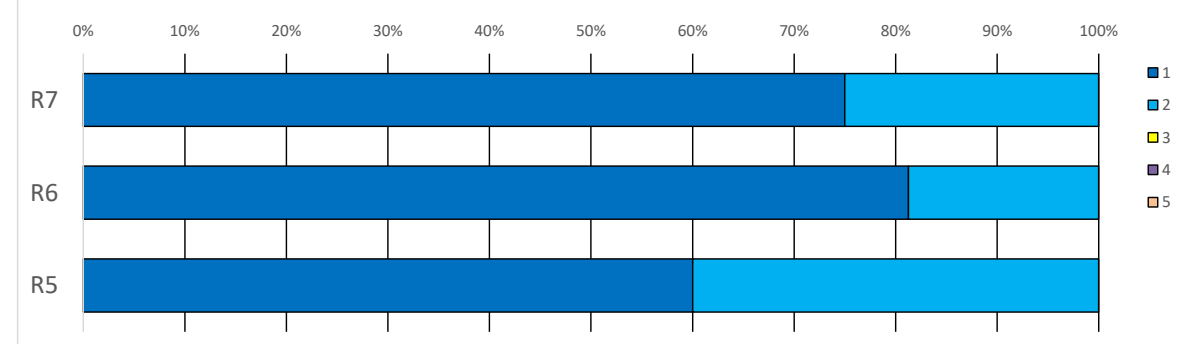
2 東小の児童が互いを認め合ったり、自分のよいところを自覚していると思いますか。



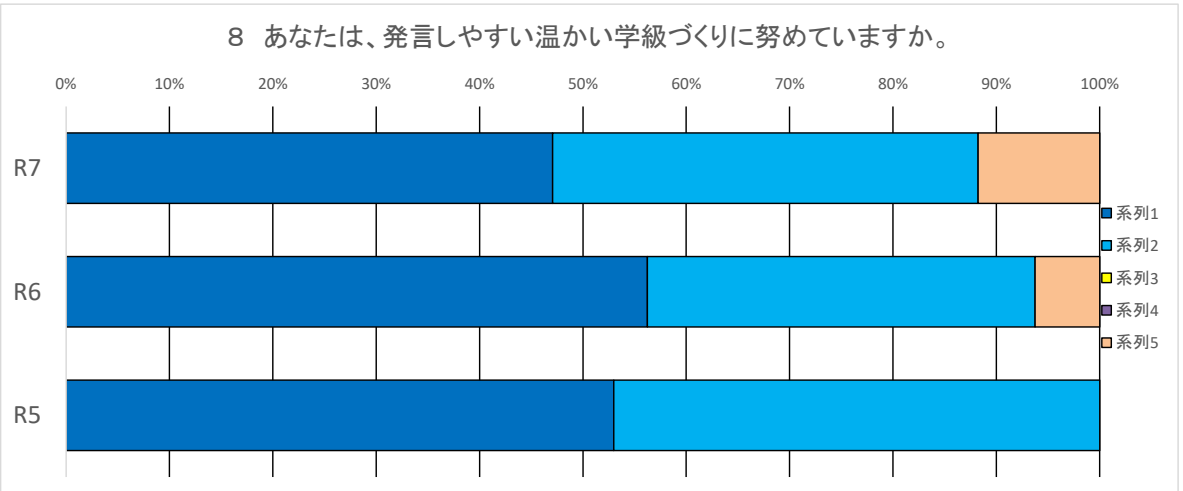
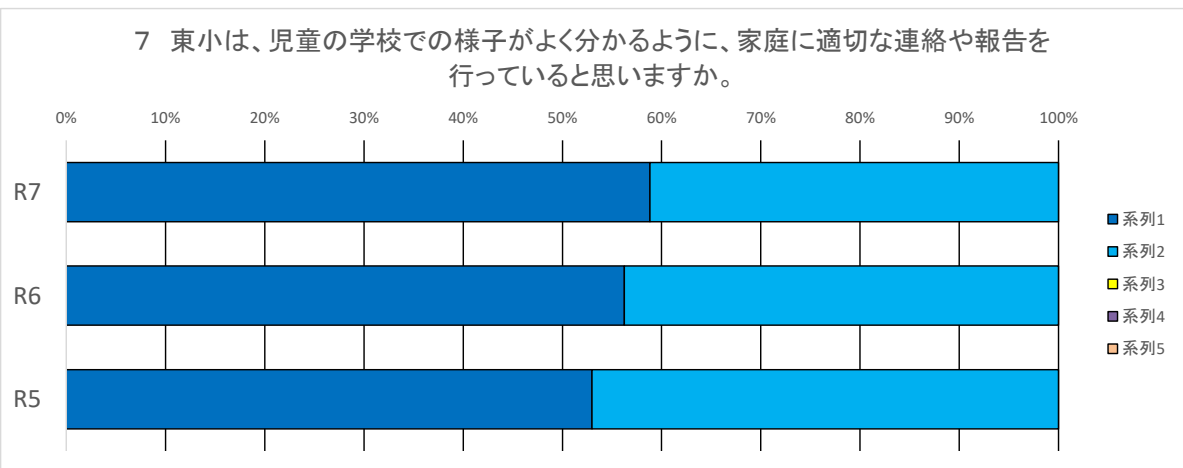
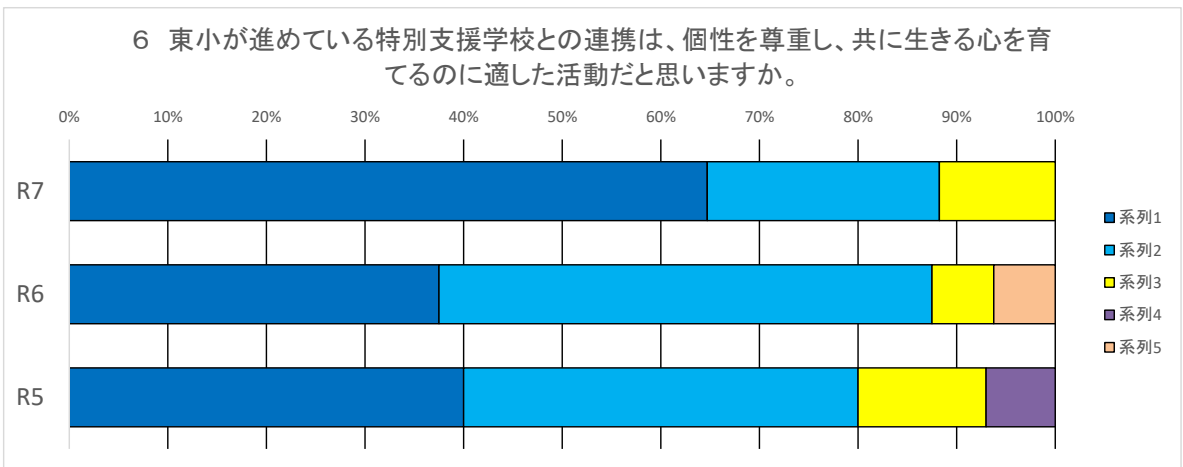
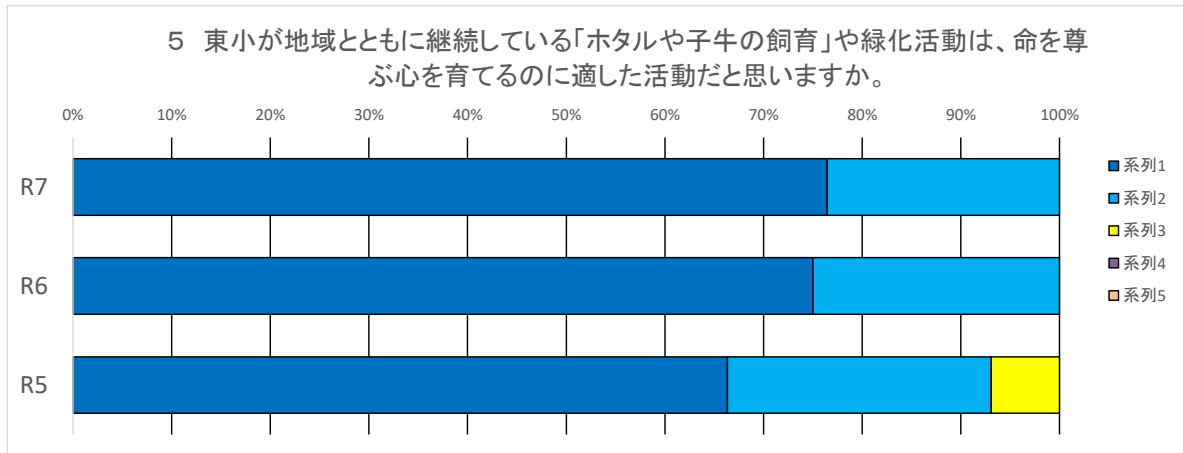
3 あなたは東小の児童が学習に意欲的に取り組んでいると思いますか。



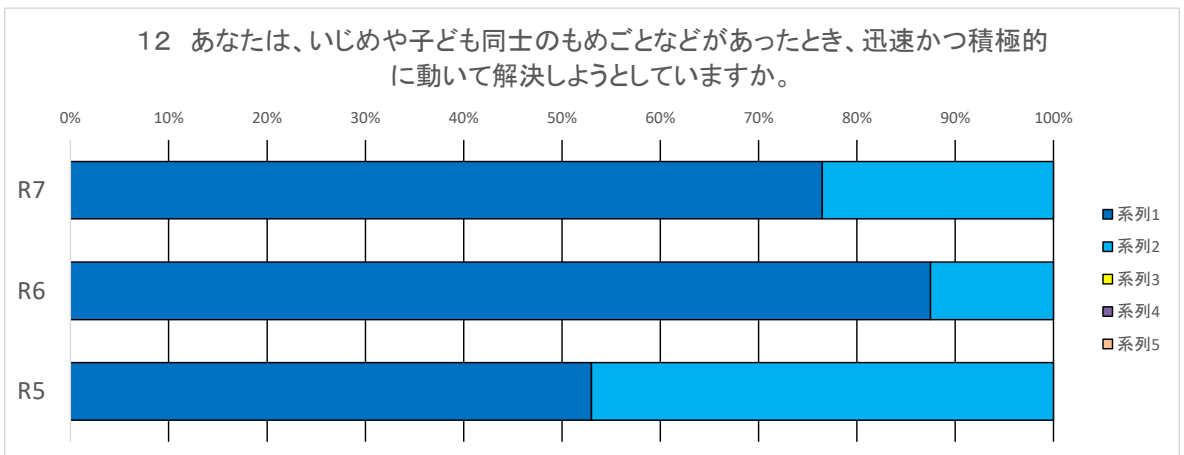
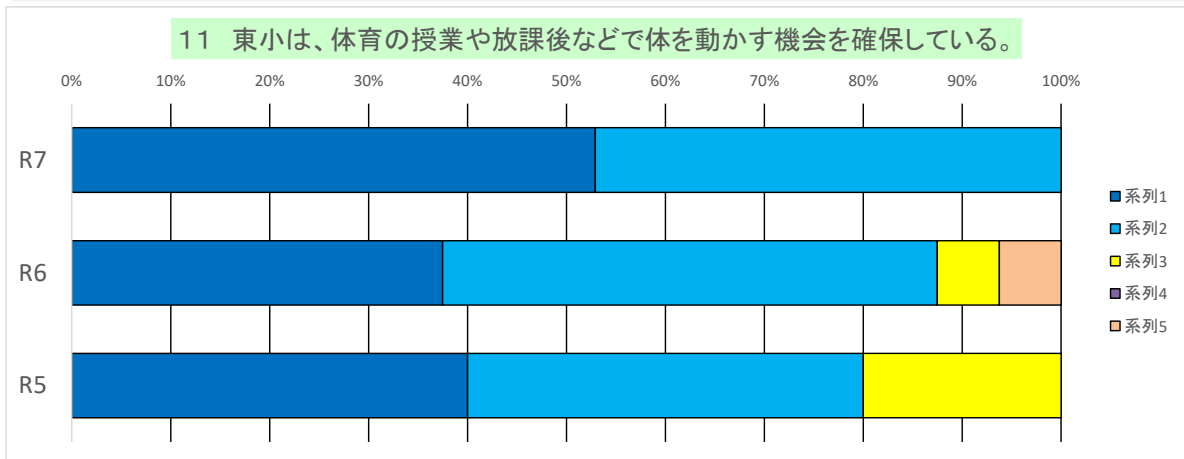
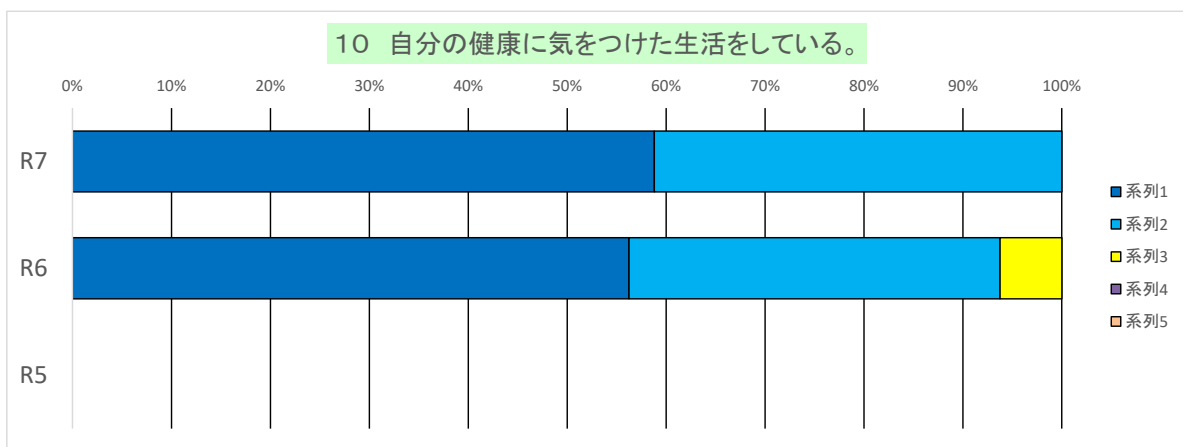
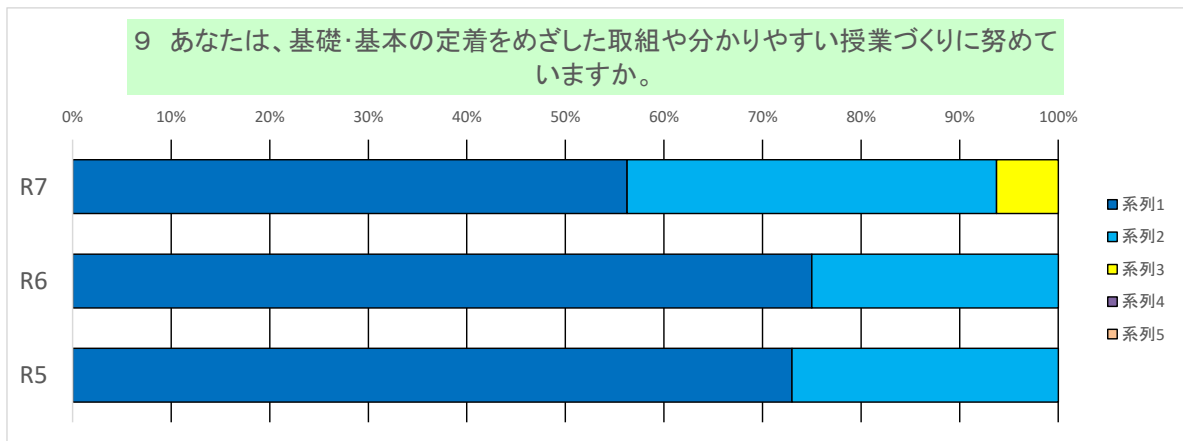
4 東小が進めている「ふれあい活動」が子どもの心を育てるのに適した活動だと思いませんか。



令和7年度 学校評価アンケートまとめ 教職員3年間比較

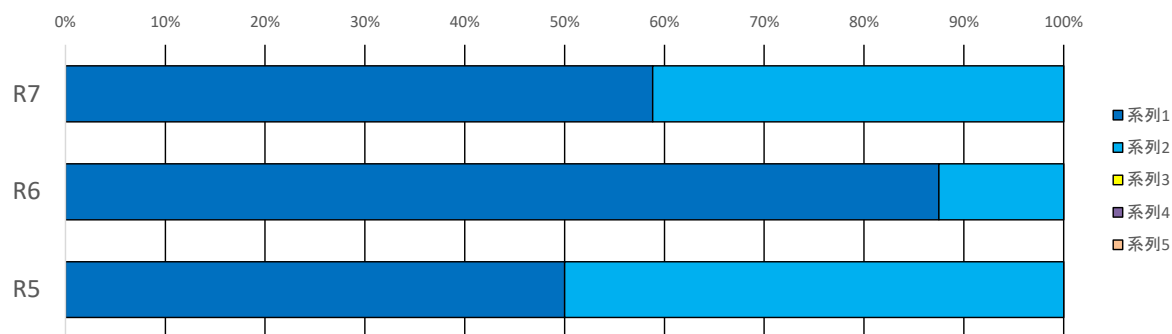


令和7年度 学校評価アンケートまとめ 教職員3年間比較



令和7年度 学校評価アンケートまとめ 教職員3年間比較

13 あなたは、児童のよいところを認め、一人一人の活動の場を作り、児童が自己肯定感や有用感を抱けるよう指導に努めていますか。



令和7年度の学校評価アンケートの結果より

1 児童の結果から

質問項目④「ふれあい活動でみんなが仲よくできる学校だと思う」、質問項目⑨「先生は分かりやすく教えてくれる」の1（そう思う）2（まあまあそう思う）の値がほぼ100%という結果であった〔資料P2〕。一方で、質問項目⑦「毎日学校に来るのが楽しい」の1（そう思う）の値は向上しているものの、3（あまりそう思わない）4（そう思わない）の値が増えている〔資料P6〕。行事や授業では、満足している子供が多いと言えるが、それ以外の活動の中でも学校生活が楽しいと感じる子をさらに増やしていけるように改善を目指していきたい。

2 保護者の結果から

質問項目⑩「自分の健康に気をつけた生活をしている」の1（そう思う）2（まあまあそう思う）の値が、6年度と比較して増加しており、保護者の意識の高さが、欠席が少なく心と体が元気な子どもたちの生活に繋がっていると考えられる〔資料P11〕。質問項目⑪「東小は、体育の授業や放課に外遊びなどで進んで体を動かす機会を確保している」の1（そう思う）2（まあまあそう思う）の値が、5年度から年々減少している〔資料P12〕。夏季の高温が続く時期は、体育館で活動できる工夫を始めているが、引き続きこうした取り組みを継続し、年間を通して体を動かす機会を確保できるようにしていきたい。また、⑫「いじめや子ども同士のもめ事などがあった場合には、的確に動いて解決に尽力している」の1（そう思う）2（まあまあそう思う）の値が6年度より減少している。児童アンケートを見ると、これらの値は向上していることから、教職員が子どもたちに寄り添っていることが分かるため、情報を適切に家庭へ共有できるよう努めていきたい〔資料P12〕。

3 教職員の結果から

どの質問項目に対しても、1（そう思う）2（まあまあそう思う）の値が高く、教職員が前向きに教育活動に取り組んでいることが分かる。今後は、質問項目②「児童が互いを認め合ったり、自分のよいところを自覚したりしていると思う」、⑬「児童のよいところを認め、一人一人の活動の場をつくり、児童が自己肯定感や有用感を抱けるよう指導に努めている」の回答において、教職員が自信をもって「そう思う」と答えられるように、全職員がより一丸となって教育活動に取り組んでいく必要があると考える。